

明治41年(1908)～昭和9年(1934)

群馬のスポーツ⑭ 世界に挑んだテニス界の名手

さとう 佐藤

じろう 次郎



佐藤次郎は小学校に入ると兄にさわれぬ球をはじめてんだ
茨中(現の茨川高校)時代は中学校(旧制)庭球界では並ぶものがないほどの選手になった

上京し、早稲田大学第一高等学院(旧制)に入学し硬式庭球の世界に入ったんだ
すごいあれはだれだ
早稲田の佐藤だよ

昭和四年国内の大会で優勝をさらっていきさながら最愛の母の死！
世界タイトルをとった姿をみせたか
つたよ

①油断をせぬこと
②落ちついた態度
③試合の前には同封の薬をのむこと
それから次郎は母の写真をもっていつも試合にのぞんだ
次郎がもらった田の最後の手紙

お母さん
あれ……

次郎はその国内で優勝し、学生チャンピオンになり日本ランク一位となった
田さんチャンピオンになったよ

次郎は体調のわるさと責任感の重みにたえかねて夜の馬拉ッカ海峡に身をなげってしまった
四月五日一七歳の若さだった兄太郎にあてた遺書には

兄貴
許せ……

昭和六年二月欧州ゾーンに出るため佐藤悽太郎、川地実らとともに出発
テ杯の前しよう戦でも日本チームはいい成績を残し人々をびくくりさせた
やった!

体調がすくれないまま
昭和九年三月三日外の四人と神戸港からテ杯戦に箱根丸で旅出つ

こんな中で、佐藤次郎の世界をまたにかけた活躍はつづくんだよ
昭和八年のウィンブルドン大会では世界ランク第二位となり、日本テニス界の黄金時代を築いたしかし帰国後体調をくわしてしまつ

ううう
胃がいたむ
どうし
たの？
次郎さん
このころから次郎に胃腸障害がはじめたんだよ

全仏(フランス)選手権では準決勝まで勝ちのぼり名手ポロトラ(フランス)に敗れたが次郎の名はますます有名になったよ
ありがう